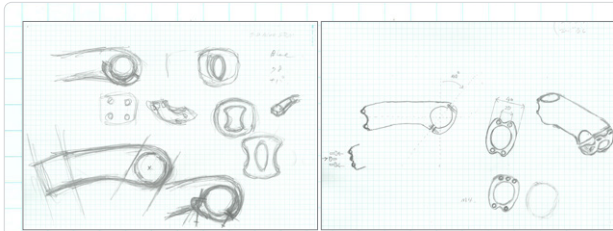


月刊 サンエスウォッチング Vol.18

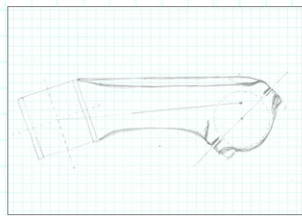
「ワンバイエス スージーデザインの変遷」

第1章 スージーシステムの誕生

＜フレームの変化がもたらしたシンプルで不都合ポイントをどうにかしよう・・・＞

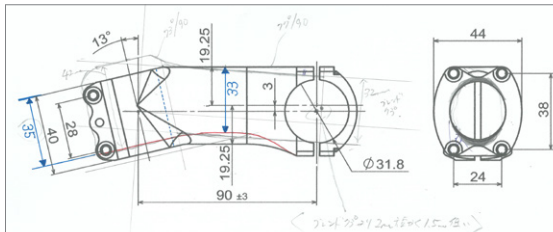


完成品をにやんこシステムと言われたりしていますが、左のように当初のデザインアイデアはハンドルクランプボルトも掻き消したようなもので、アルミ材での限界に近い滑らかさを追求した本当に「ねこデザイン」の様相でした。そこから右のように機材として徐々に洗練させて行ったのです。

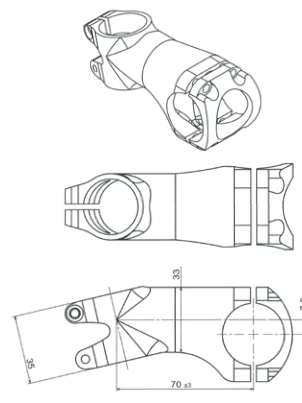


「もう少し、ほんのちょっとでいいから位置を下げたいな・・・」「スローピングフレームに格好が合わないし・・・」。こんな小さな囁きに気づいたのは2013年頃の事でした。ヘッドチューブがどんどん横に縦に太く長くなって、ポジションも姿も何かしっくりこない、という感触。それは、明確な不快と不満として、おそらく同時多発的に何人かの人達が感じ始めた事ではなかったかと思います。察しの通りフレームの進化とはカーボンフレーム化を指すわけですが、この長いヘッドチューブで、自分のポジションを出すために73度以下の角度のきついステムに変えたは良いけど、ハンドリングがギクシャクするし見た目も格好悪い。これをどうにかしよう・・・だから設計テーマもポイントも至ってシンプルに主に下記の3点としました。

- ・コラムクランプ部分を極限まで上下に短く
- ・クランプ中心をステムボディーの中心よりも下げる
- ・ボディーの角度は決して下げ過ぎない

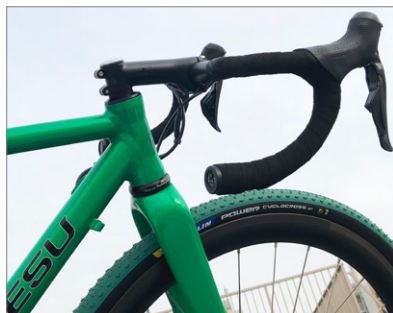


機材としての条件を満たしながらもギリギリまでシルエットも追求しコラムハイト 35mm・ボディー径 33mm を目指した道半ばの図面です



完成図面はかなり工業的ですが、仕上げは非常に滑らかであり且つシンプルです

＜ハンドル位置を美しく下げることにこだわったステムの完成＞



色んなフレームにマッチするデザインに仕上がりました

2015年、これらの明確なテーマと、強度・剛性・耐久性・保持力、という機材としての絶対条件をバランスして出来上がったものが、結果としてスージーデザインというカタチとなったわけです。

コラムクランプハイトは通常のステムより5mm程度短い35mm。ハンドルクランプ中心はステムボディー中心より7.5mm低く。ボディー角度はよくある84度より低く、よくある73度より高い77度。ハンドルクランプボルトも外に突き出ずスッキリさせています。的確最適なポジションを出す事を最大の使命とし、ロードレーサーの美しさを引き出すシルエットも獲得する。そういうステムが仕上がりました。



3Dモデルで改良を重ね製品となりました



VIVA

～自転車万歳！！～ (連載コラム：全12回)

【第4回】

VIVAの中でも超ロングセラー商品として「バックサポーター」があります。40年以上前の1975年頃から販売され続けています。当時、サドルバッグはフレームのシートステーにキャリアを取り付けセットするものでしたが、シートポストを利用する方式は画期的でした。現在販売しているモデルは取り付け方法を改良し、シートポストを抜かずに着脱可能としたりストラップなどのホールディングも増やしています。しかし原型は何ら変わりありません。サドルバッグのサポーターであるから商品名は「バッグサポーター」だったのですが、近年何故かこれが「バックサポーター」と呼ばれるようになりました。後ろのサポーターだから、という説もありますが、本当の変化の理由は謎です。



今でも活躍する「バックサポーター」。50年近く前にこれがMTBやグラベルバイクと呼ばれるような自転車に取り付けられることになるとは誰も想像できなかったでしょうね



「ニューサイクリング」1975年3月号 Vol.13 No.124の製品メモページには「バックサポーター」などアイデア商品として紹介されています。(サンエス商会)と明記されていますが、理由はこれまた謎です